

認知症に対する理解を深めるための活動

茨城県作業療法士会では、平成29年度に茨城県から委託された「平成29年度認知力アッププログラム作成事業」で認知症AR/VRを制作しました。認知症に対する理解がより深まるよう、予防に取り組む前の導入ツールとして制作しております。当士会では、これを利用して県内を中心に要請に応じて「認知症AR/VR体験会」を開催しております。

認知症AR/VR体験会の内容

認知症AR/VR体験会では、協会制作DVD「二本の傘」の上映とセットにして、認知症に対する作業療法士の観点や関わり方をご紹介しながら、機能障害に対する観点をもとに制作した認知症AR/VRを体験していただいています。



開催実績

2018年度は研修会やイベント等13ヶ所からご依頼をいただき、そちらに出向いて、ケアマネや介護職、一般の方を対象に、認知症AR/VR体験会を開催しております。

2019年度は現在までに3ヶ所開催、年度末までに6ヶ所開催を予定しております。また、今年度開催した龍ヶ崎市小学生対象認知症サポーター養成講座では体験の様子が、茨城新聞に掲載されました。

<2018年度開催場所>

ひたちなか市地域包括支援センター研修会、介護老人福祉施設北勝園研修会、ケアマネジャー北関東ブロック研修会、ひたちなか健康・絆・終活フェス2018、ひたちなか市地域密着型事業所懇親会、認知症のひとと家族の会茨城県支部本人交流会、常磐大学高等学校文化祭、神立病院オレンジのわ、でくあす大子、介護老人保健施設はあとびあ市民公開講座、茨城町認知症サポーター養成講座、茨城工業高等専門学校障害理解促進講座、認知症疾患医療センター山岳荘小松崎病院研修会

<2019年度開催場所>

龍ヶ崎市小学生対象認知症サポーター養成講座、ひたちなか健康・絆・終活フェス2019、神栖市終活フェス、常陸大宮市北富田地区会（1月末）、認知症疾患医療センター池田病院研修会（1月末）、取手市桜ヶ丘地区認知症予防の会（2月）、茨城リハビリテーション病院研修会（2月）、筑波学園病院研修会（2月）、認知症疾患医療センター宮本病院研修会（2月）



今後の展開

他県の団体からもお問い合わせいただくことがありますので、内容・機材をアップグレードし、活動を更に広げていきたいと考えています。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、イベントのキャンセルが相次いでおりますが、依頼があれば感染対策を万全にして開催させていただきたいと思っております。

認知症の「幻視」を疑似体験

視界に突如「黒い人」

認知症への理解を高めようと、県作業療法士会(水戸市、大場耕一会長)は、患者が認識している世界を疑似体験できる映像教材を作成し、啓発に取り組んでいる。存在しないものが見えてしまう「幻視」の症状をVR(仮想現実)とAR(拡張現実)の技術で再現した。会の幹部は「適切な接し方を身に付けることにつながれば」と期待を込める。

県作業療法士会 映像教材を作成



①ARの技術で幻視の症状を体験する児童。ゴーグルでのぞく光景には、人が浮かび上がっている。②VRの映像教材では和室に人が突然現れる様子が見られる。ゴーグルをのぞいたまま頭を動かすと視界も変わる。(県作業療法士会提供)



「知らない人がいる」、「黒い影が見える」
11月8日、龍ヶ崎市立大宮小の家庭科室。スマートフォンを装着した専用のゴーグルをのぞいた5年生の児童が驚きの声を上げる。VRとARを活用した幻視の疑似体験だ。患者やその家族を支える人材を育てる「認知症サポーター養成講座」の中で行われた。作業療法士らもスタッフとして加わった。

龍ヶ崎・大宮小 児童ら理解深める

教材は「レビィ小体型認知症」の患者に多いとされる幻視を映像化した。VRでは360度の視界で、和室の映像に男性や黒い影が現れる。ARの場合は、ゴーグルでのぞく実際の光景に人が浮かび上がって話し



ARの教材では実際の光景に人が浮かび上がる(県作業療法士会提供)

VRとAR それぞれ「仮想現実」と「拡張現実」を意味する。VRでは、奥行きのある映像などで現実のような世界を体験できる。ARは、実際の景色に人物やキャラクターといった別の情報を加えて映し出す技術という。

かけてくる仕組みだ。5年の加藤優作さん(10)は「影や人が突然見え始めたら怖いだろうと思う。患者の人には優しく、ほっとするように話してあげるのが大切と分かった」と感想を述べた。
会では県の委託を受けて2017年度に教材を作り、翌18年度から体験の場を提供している。これまでに、福祉関係者の研修などで使ってきたが、義務教育の現場では大宮小が初めて。会によると、作業療法士はリハビリテーション職で唯一、精神科の領域に携わるため、より深く症例や対応を伝えられる利点があるという。
山倉敏之副会長は「なかなか理解しづらかった幻視を疑似体験できるように作った。認知症患者の感じ方や恐怖心を理解するのにつながるはず」と強調。今後も継続していく。疑似体験に関する問い合わせは、県作業療法士会☎029(3002)7092。(鈴木剛史)